

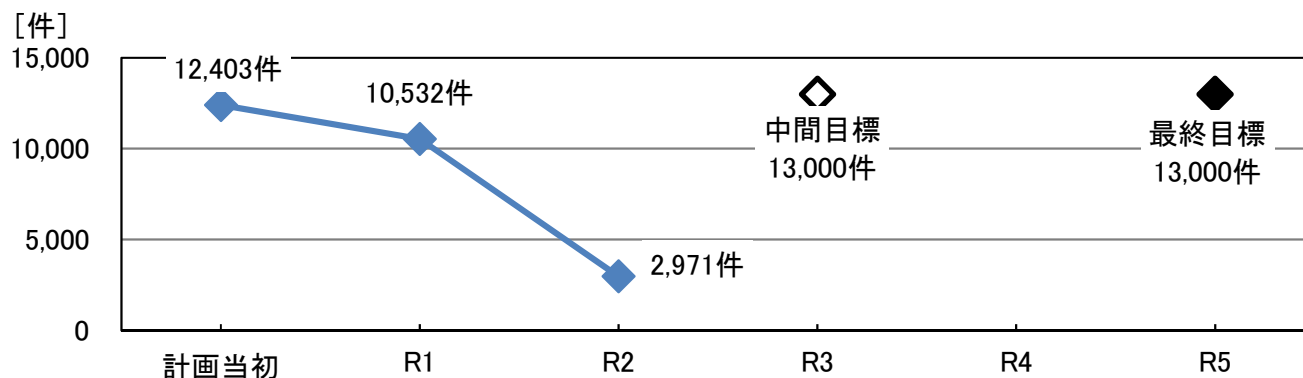
めざす成果1-2-1 いざというときに診療を受けられる

<成果を計る指標>

1. 指標① 休日夜間急患診療所(一次救急)の年間患者取扱件数

◆「一次救急」とは

軽症かつ緊急性が低く、入院治療の必要のない帰宅可能な患者に対応する救急医療です。
必要に応じて二次救急以上の適切な医療機関に案内するケースもあります。

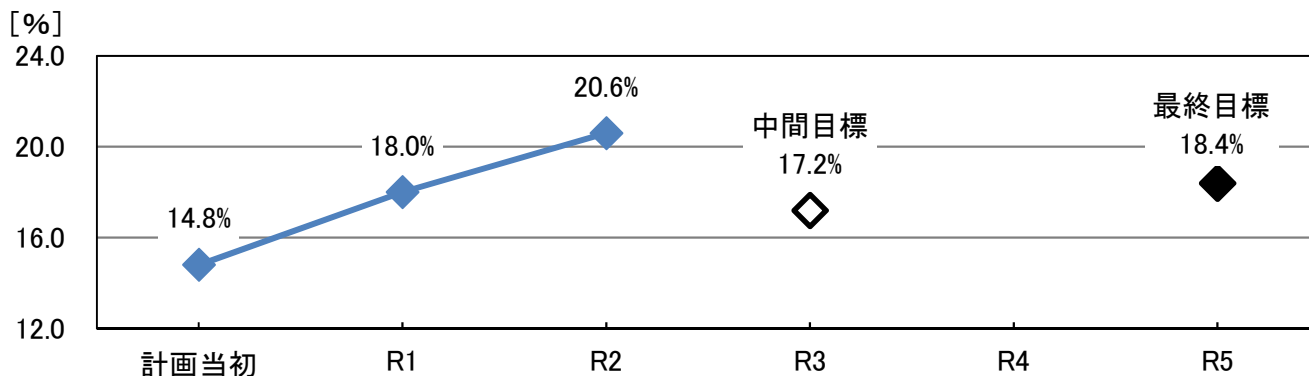


※令和2年度は、新型コロナの感染防止のため、受診を控えた方が多かった可能性があります。

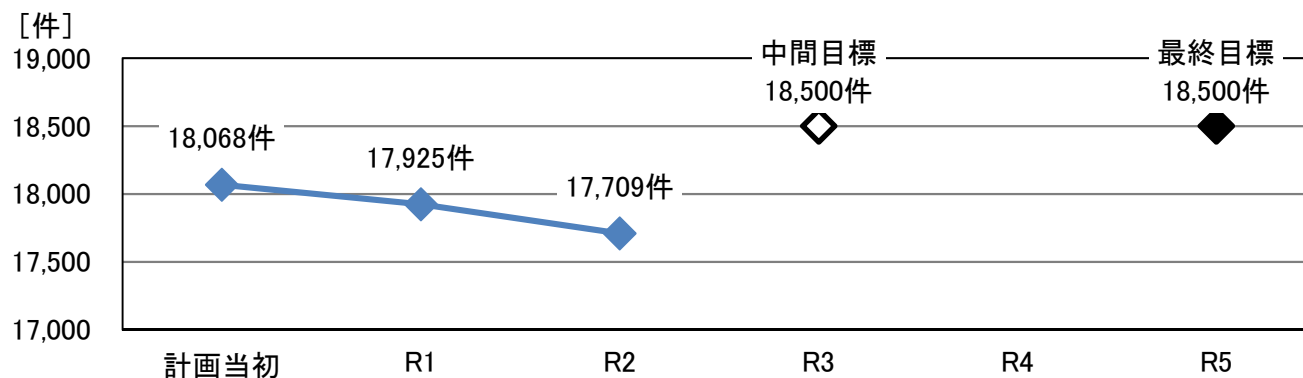
2. 指標② 二次救急での中度・重度患者の割合

◆「二次救急」とは

手術や入院が必要な重症患者に対応する救急医療です。24時間体制で救急患者の受け入れを行っています。



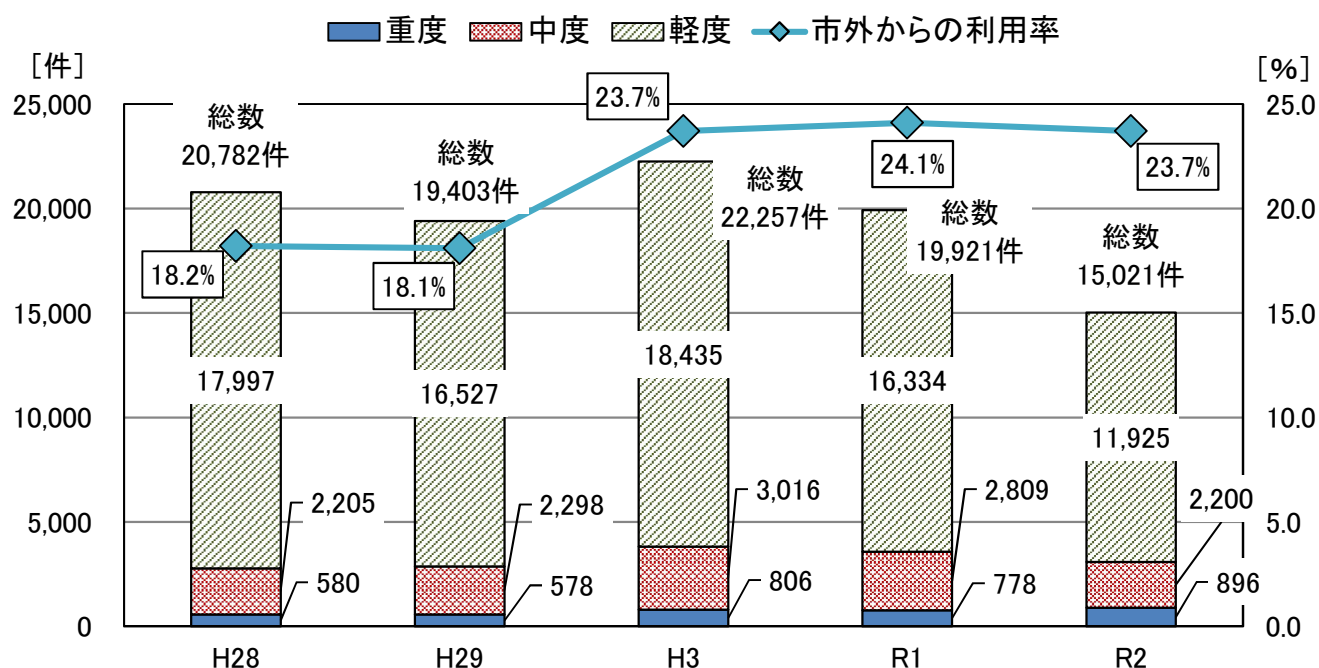
3. 指標③ 24時間健康相談受付件数(入電件数)



※相談内容の内訳については、計画当初、令和元年度、2年度いずれも、病気・症状と治療に関する相談が約半数と最も多く、次いで医療機関に関する相談、メンタルヘルスに関する相談、事故・けがと治療に関する相談の順となっています。

<参考データ>

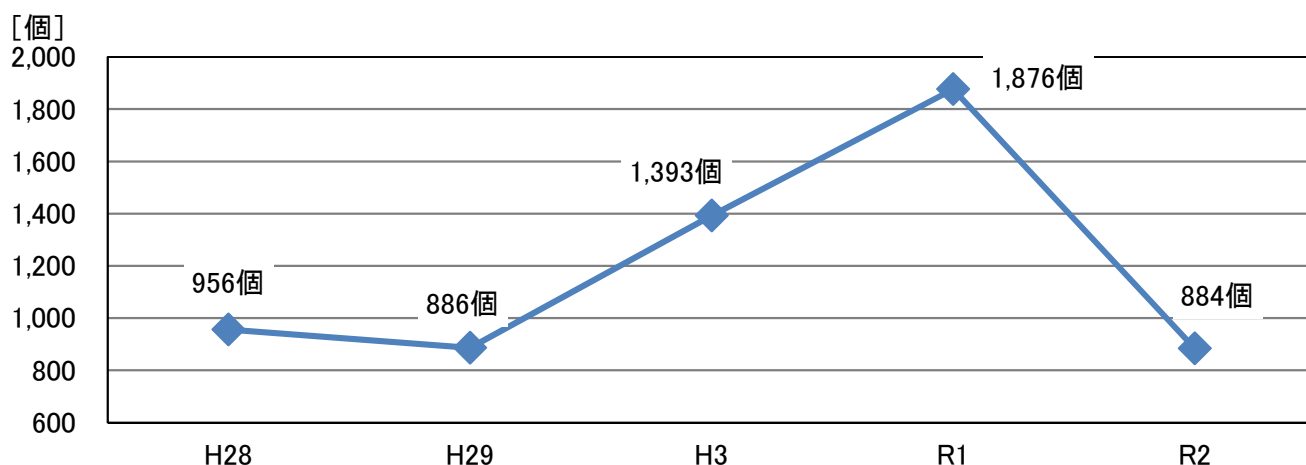
4. 二次救急医療機関での重症度別年間取扱件数



5. 救急医療情報キット配布状況(配布数)

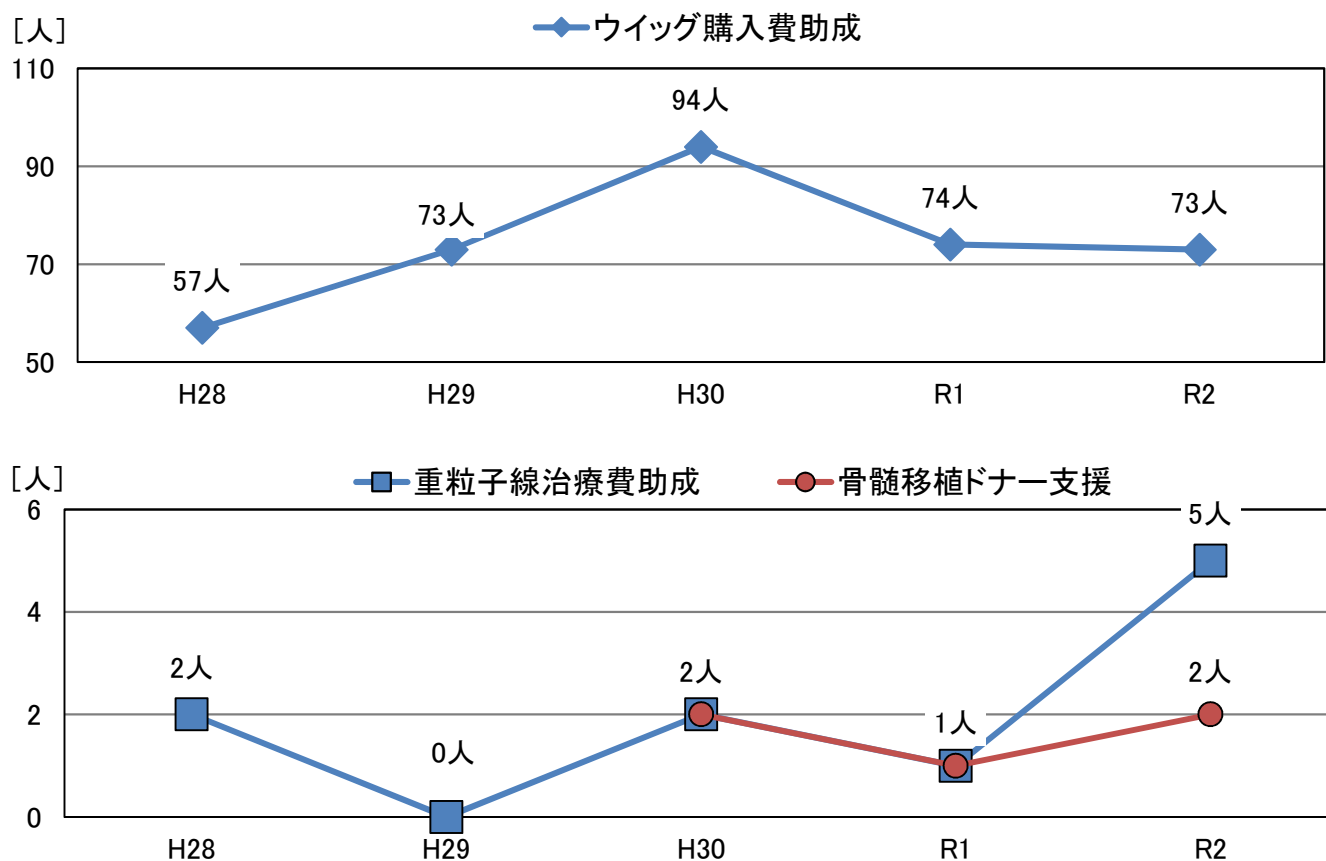
◆「救急医療情報キット」とは

救急医療活動に必要な情報(氏名、生年月日、血液型、服薬内容、かかりつけ医、緊急連絡先など)を自身で記載したシートを円筒形のプラスチック容器に入れたもので、自宅の冷蔵庫に保管しておきます。万が一の際には、駆けつけた救急隊員が冷蔵庫から取り出して確認することにより適切な処置に活用してもらうことを想定しています。



※令和2年度は、各種イベントが新型コロナにより中止となったため、イベントでの配布を実施できませんでした。

6. がん患者等支援の実績(ウィッグ購入費助成、重粒子線治療費助成、骨髄移植ドナー支援の各対象者数)

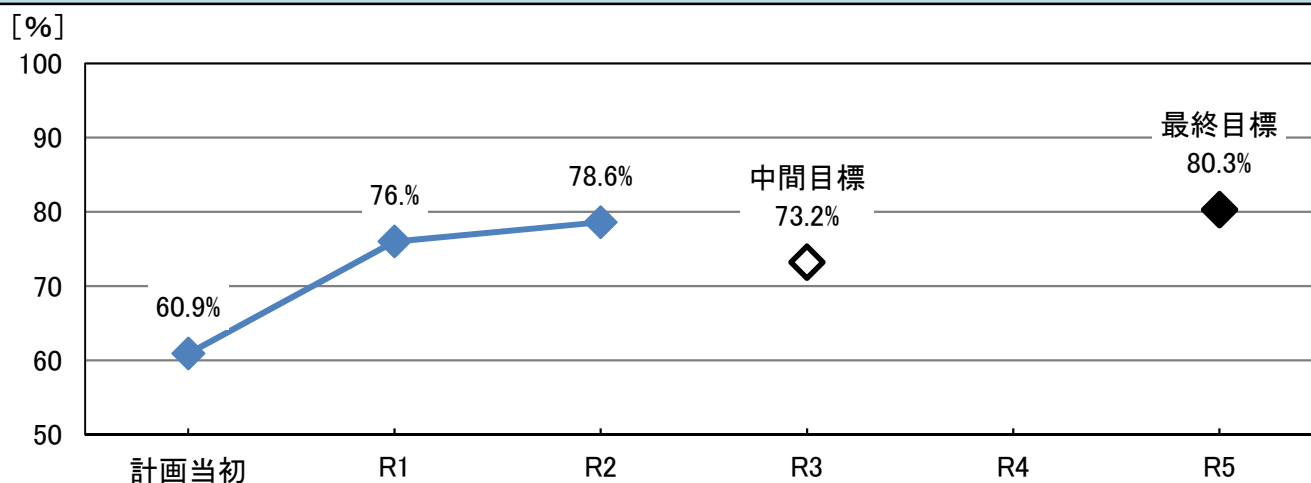


※骨髄移植ドナー支援は平成30年度より開始しました。

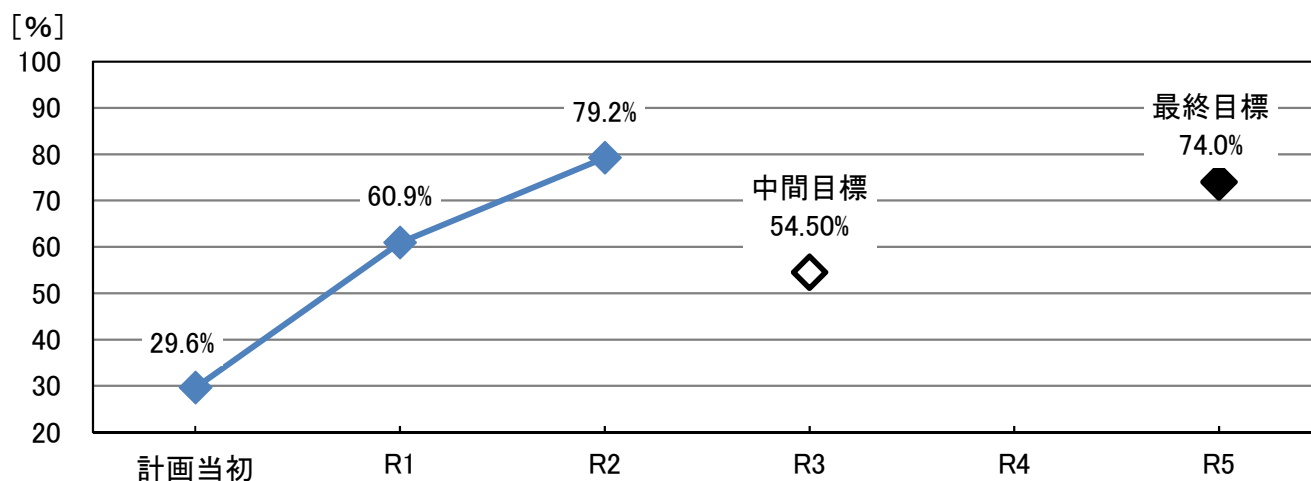
めざす成果1-2-2 市立病院が地域の基幹病院としての役割を果たしている

< 成果を計る指標 >

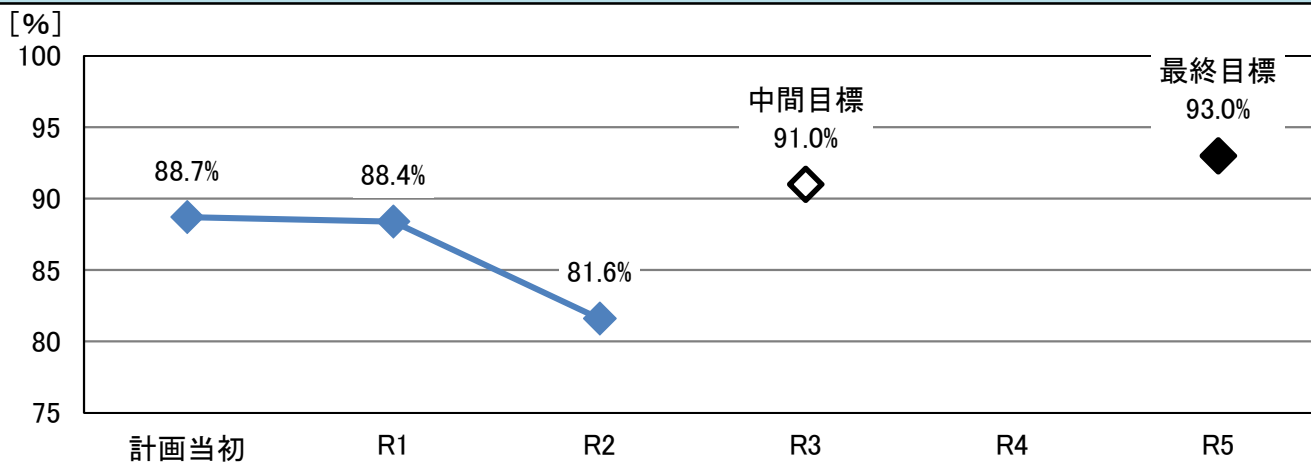
1. 指標① 地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合（紹介率）



2. 指標② 市立病院から地域の診療所等に紹介した患者の割合（逆紹介率）



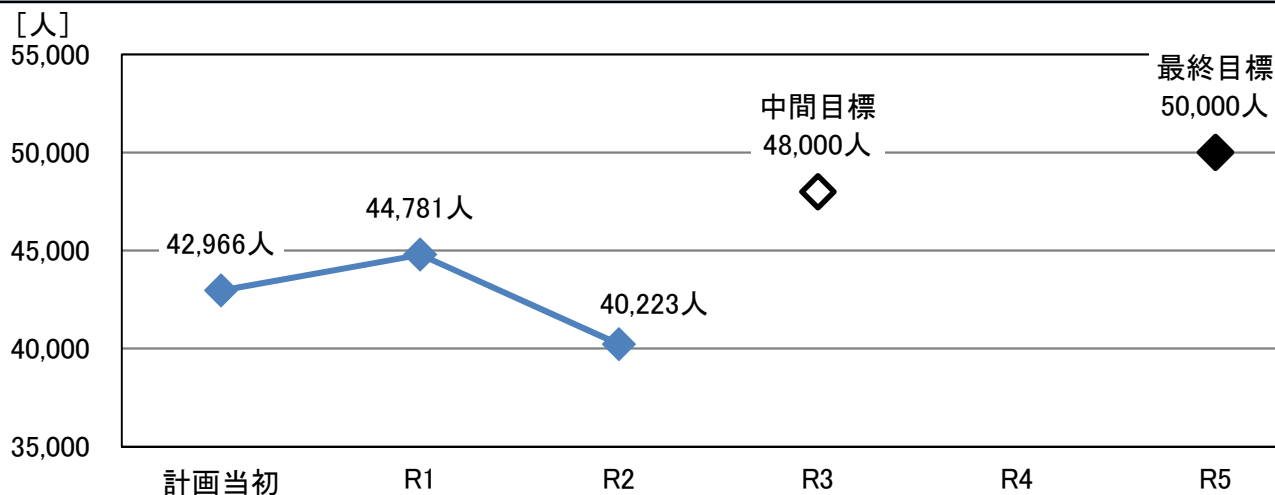
3. 指標③ 患者満足度調査における満足度の割合



※令和2年度は、新型コロナの感染対策のため、接触をできるだけ回避できるよう、回答方法をアンケート用紙からインターネットに変更したところ、回答件数が大幅に減少しました。

⇒ R1:593件 → R2:167件 (71.8%減)

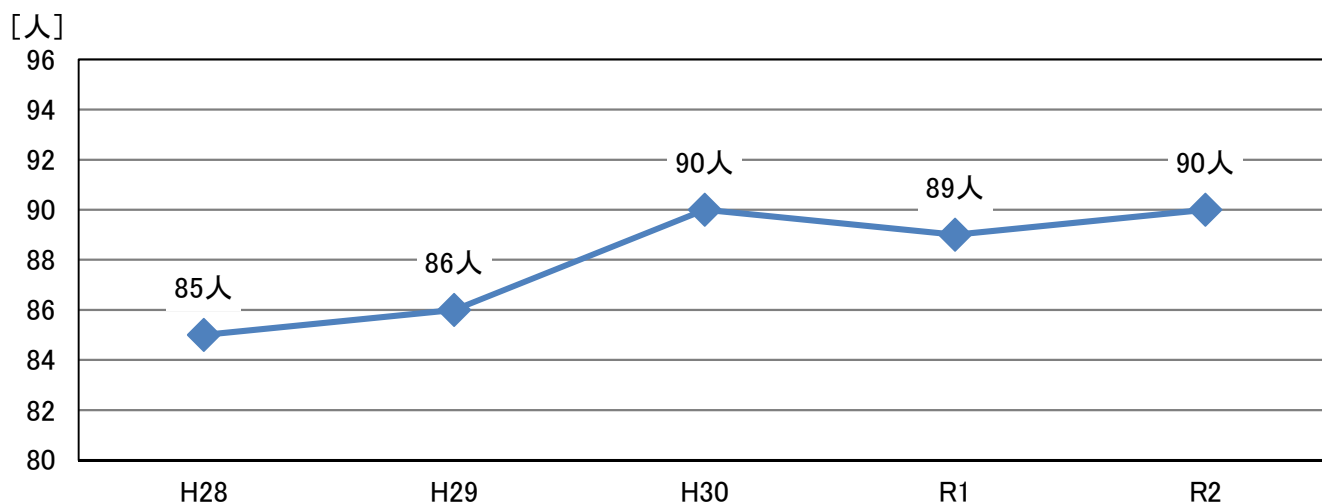
4. 指標④ がん患者受入数(延べ)



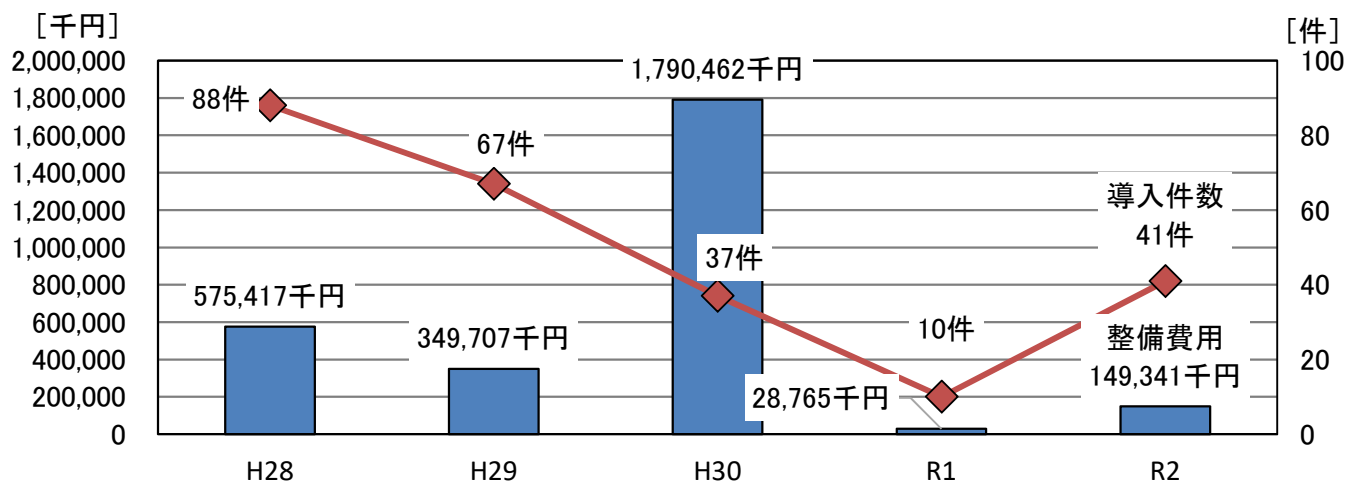
※令和2年度は、前年度と比較し、がん患者を含む患者数が全体的に減少しました。

<参考データ>

5. 医師の充足数



6. 医療機器の整備費用及び導入件数



※平成30年度に高エネルギー放射線治療装置を導入しました。